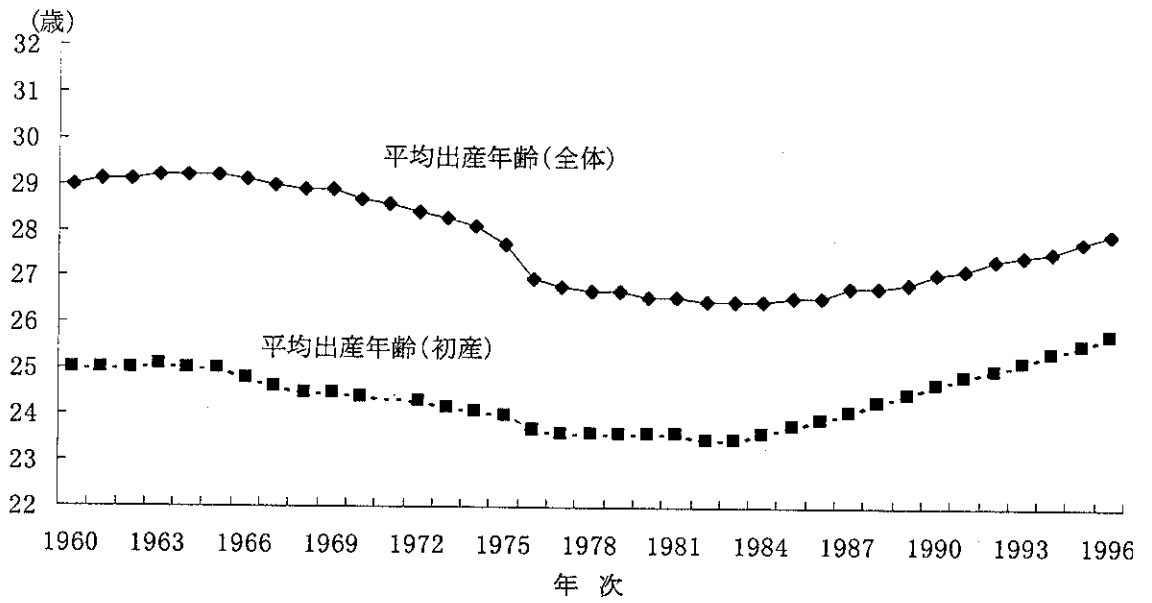


図7 ポルトガルの平均出産年齢の推移



出所：Recent demographic developments in Europe, 1999. Council of Europe.

(表 12) 「結婚及び初婚平均年齢 1º casamento 1981、1991～ 1995 年」

年	男	女	年齢差
(結婚)			
1981	27.2	24.3	2.9
1991	28.0	25.3	2.7
1992	28.1	25.4	2.7
1993	28.3	25.6	2.7
1994	28.4	25.8	2.6
1995	28.6	25.9	2.7
(初婚)			
1981	25.4	23.3	2.1
1991	26.3	24.4	1.9
1992	26.4	24.5	1.9
1993	26.5	24.7	1.8
1994	26.7	24.8	1.9
1995	26.8	24.9	1.9

出典) INE - Estimativa de População Residente  
INE, Portugal Social, 1991/1995

(表 13) 「女性の母になった平均年齢 1981、1991～ 1995 年」

年	1ºFilho	Um Filho
1981	23.6	26.6
1991	24.9	27.2
1992	25.0	27.4
1993	25.2	27.5
1994	25.4	27.6
1995	25.6	27.8

出典) INE—Estimativa de População Residente

INE, Portugal Social, 1991/1995

### 2)結婚の形態

1997 年、国全体に関し、宗教婚 (Casamentos Católicos) は、67.6%、これに対し法律婚 (Casamentos Civis) は 32.4%である。この両形態の均衡している地方はアレンテージョとマデイラである。アルガルベとアソーレス地域は法律婚の比率が上回っている。

ポルトガル人は従来夏の季節の月に結婚することを選ぶ傾向にある。1997 年においては、8 月に一日平均結婚数 395、9 月 277、そして 7 月 258 である。これらは、結婚を祝す最も良い時期とされており、次いで 5 月、6 月の順である。

1997 年、財産管理制度 (Regime de Bens) に関して、結婚を控えた人々の 88.2%は、獲得財産の共有 (Comunhão de adquiridos) を選ぶ。一方、全財産の共有 (Comunhão geral) を選ぶ比率については、国全体の 6.8%に対してマデイラが 19.2%と高率を示している。また、財産の分離 (separação de bens) の選考を示した順は、リスボン・テージョ河口域、アルガルベ、アレンテージョが、それぞれ 7.4%、6.7%、6.0%であった。

結婚予定者に既に互いの子どもがいた数に関しては、国全体では 1996 年の 5.4%に対して、1997 年は 4.7%であった。しかしながら、この割合に関しては、国の平均を大きく上回るものとしてアルガルベが 11.6%、アレンテージョ 8.8%、そしてリスボン・テージョ河口域 7.5%である。1997 年の結婚 (Casamentos Celebrados) の合計のうち、88%にあたる 57,890 は、独身男性と独身女性による初婚であると述べている。これは、1966 年より 4.0%増加している。また、2 回以上の結婚を行う比率は男性の場合に多く、このケースで、結婚したうちの 1.7%が配偶者と死別した男性、7.5%が離婚した男性であったことに対し、女性の場合は配偶者と死別した女性が 0.9%、離婚した女性が 5.9%であった。

1997 年の結婚 (Casamentos Celebrados) のほとんどはポルトガル人どうしの結婚であり、わずか 2.0%はポルトガル人と他の外国籍の個人との結婚であった。また、1997 年の結婚のうち 13.4%は、結婚する者どうしが既に同じ住居を共有していた。この点については、地域別の差異が大きく、アルガルベ、アレンテージョ、リスボン・テージョ河口域で 29.1%、23.9%、及び 21.3%をそれぞれ示したのに対し、最も低い率を示したのはノルテの 6.1%であった。

### 3)離婚及び婚外子の動向

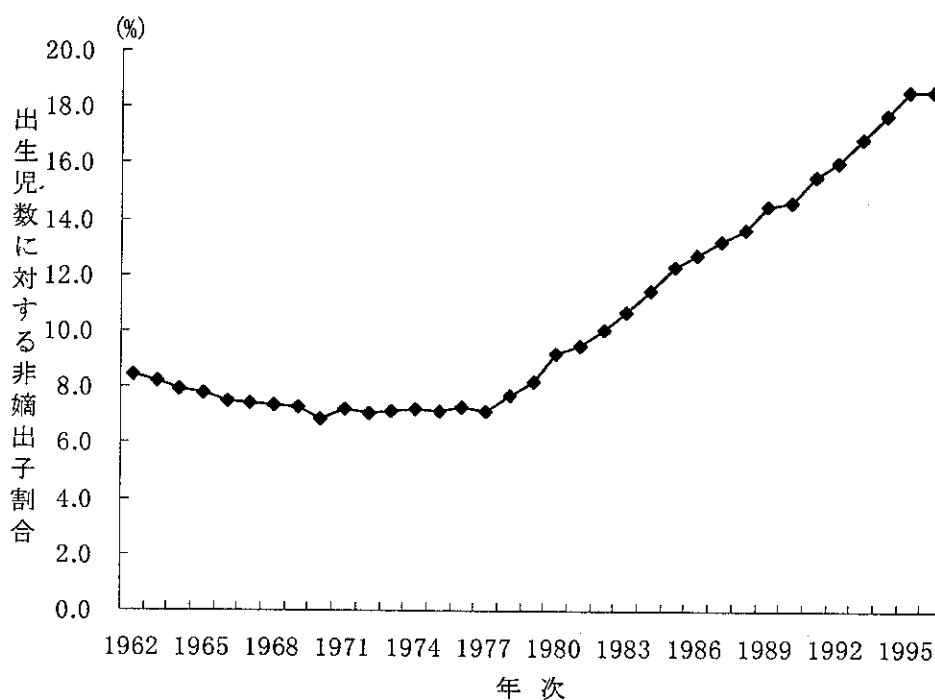
1997 年、婚姻の解消は 61,271 であり、これは前年度の 0.3%増にあたり、そのうち、77%は死別により、残りの 23.0%が離婚の結果であった。1997 年の離婚数は 14,078 でこれは前年度よ

り 4.8%増であり、離婚率は 1.4%である。1960 年以降の離婚率の推移をみれば、1960 年以降 1974 年までは 0.1%を継続していたが、75 年以降から離婚率が上昇し、76 年には 0.5%と急上昇した。その後 1980 年代の半ばからは 0.9%台に入り、1991 年より 1.0%台に上昇してから 1994 年には 1.4%にまで達した。

1997 年現在で地方別で離婚率の高かったのはアルガルベ、リスボン・テージョ河口域のそれぞれ 2.0%、1.9%である。低率はノルテとアレンテージョの 1.0%であった。これは 90 年代に入ってからの変わらない傾向である。

また、ポルトガルでは 1975 年以降新生児における婚外子の割合が急激に増加してきている (図 7)。

図 7 ポルトガルの出生児に対する非嫡出子割合の推移



出所：Recent demographic developments in Europe, 1999. Council of Europe.

1997 年のポルトガルでは 22,111 人の婚外子が出生し、これは新生児 1,000 人あたり 196 人とこれまでの最高率を示した。婚外子割合の高い地方はアルガルベの 38.7%、リスボン・テージョ河口地域が 28.5%、アレンテージョが 27.5%であった。

(表 14) 「出生・死亡・婚姻率・離婚率－1997年 (NUTS II)」

	出生率 (%)	死亡率					婚姻率 b (%)	離婚率 (%)
		合計 (%)	幼児 (%)	新生児 1 (%)	周産期(a) 2 (%)	後期胎児(a) 3 (%)		
Portugal	11.4	10.5	6.4	4.1	7.2	4.4	6.6	1.4
Continente	11.3	10.5	6.3	4.0	7.1	4.4	6.6	1.4
Norte	12.3	8.9	7.1	4.5	7.5	4.0	7.5	1.0
Centro	10.2	12.0	5.6	3.6	7.2	4.9	6.3	1.2
Lisboa e Vale do Tejo	11.0	10.7	5.8	3.5	6.5	4.6	6.1	1.9
Alentejo	9.0	14.6	5.2	4.1	6.9	5.1	5.3	1.0
Algarve	11.0	13.0	6.0	4.7	9.1	5.5	5.3	2.0
Regiao Autónoma Açores	14.4	11.6	10.6	7.1	9.1	3.4	7.2	1.2
Regiao Autónoma Madeira	14.4	9.9	6.7	2.2	6.1	4.5	7.0	1.2

(a) 妊娠 28 週以上ベース。 1: neonatal、 2: perinatal、 3: fetal tardia

(b) 実質地域区分

出典) INE, Estatísticas Demográficas 1997

妊娠 28 週以上の胎児死亡率に関しては、1955 年には 24.1%であったが、70 年代以降急激に低下し、1980 年にはその半分の 11.8%になり、1997 年には 4.5%まで低下した。これを地域的にみれば、以下の「表 15」の通り、1997 年において高率はアルガルベの 5.5%、低率はアソーレスの 3.4%である。

(表 15) 「胎児死亡率の推移 1994~1997年 (NUTS II)」

	1994	1995	1996	1997
Portugal	5.8	5.5	5.4	4.5
Norte	5.4	5.5	5.0	4.0
Centro	5.4	5.0	4.8	4.9
Lisboa e Vale do Tejo	6.3	5.6	5.5	4.6
Alentejo	5.7	5.3	4.3	5.1
Algarve	6.8	3.9	7.0	5.5
Regiao Autónoma Açores	7.6	7.1	7.5	3.4
Regiao Autónoma Madeira	5.4	4.9	5.9	4.5

出典) INE, Estatísticas Demográficas 1997

## (5) 世帯、家族の動向

### 1) 世帯規模の変化

家族の平均人数は、1911 年から 1950 年までは約 4.2 人を維持していたが、1960 年に 3.8 人と 3.0 人台に低下し、以降 1981 年には 3.4 人、1995 年には 3.0 人まで低下した。こうした傾向は、他の EU 諸国に類似しているが、ポルトガルは EU 平均 (1991 年現在 2.6 人) より上回っている。

一方、スペイン、ギリシャ、イタリアのいわゆる南欧諸国はそれぞれ、3.3人、3.0人、2.8人とポルトガルと近似している。

1910年から36年後の1991年までの変化を見ると、家族員1人が約10.8%から13.9%へ、2人が19.6%から25.5%へ、3～5人が52.6%から54.2%へと増加した一方で、1960年に17%を占めていた家族員数6人以上が6.6%へと大きく減少した。

地域別特徴をみれば、以下の「図8」「図9」に示される通り、家族1人の形態は各地域に大体平均していて大きな違いはないが、家族5人以上の形態の分布は、マデイラとアソーレスの島嶼部に多く、これにノルテが続いている。但し、大家族形態は何れの地域においても、減少の傾向を示している。

(表16) 「家族員数 1960～1991年」

年	家族数(a) 合計		家族 1人居住		家族 2人居住		家族 3～5人居住		家族 6人以上居住	
	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%
1960	2,356,982	100.00	253,848	10.77	460,694	19.55	1,238,754	52.56	403,686	17.13
1970	2,345,225	100.00	234,445	10.00	514,655	21.94	1,223,960	52.19	372,165	15.87
1981	2,924,443	100.00	379,245	12.97	686,958	23.49	1,547,140	52.90	311,100	10.64
1991	3,145,734	100.00	435,533	13.85	797,258	25.34	1,705,304	54.21	207,462	6.60

注) (a) 家族 (famílias clássicas) : 同一住居に住み、親族関係を有する個人及び当該住居にて食住を共有する個人からなる集合。

出典) INE, Recenseamento Geral da População.

A Situação Social em Portugal, 1960-1995, Instituto de Ciências Sociais –  
Universidade de Lisboa, 1996

(表17) 「家族当り人数の推移 1911～1995年」

年	平均人数	年	平均人数
1911	4.2	1960	3.8
1920	4.2	1970	3.7
1930	4.1	1981	3.4
1940	4.3	1991	3.1
1950	4.2	1995	3.0

出典) INE, Recenseamento Geral da População.

A Situação Social em Portugal, 1960-1995, Instituto de Ciências Sociais –  
Universidade de Lisboa, 1996

図8 地域別家族員数1人の家族 (%)  
(1981,1991,1995)

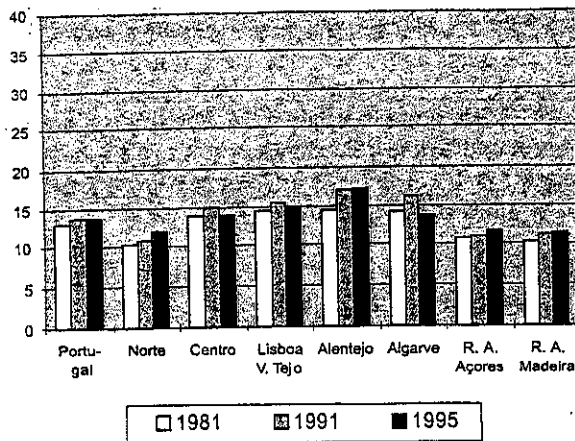
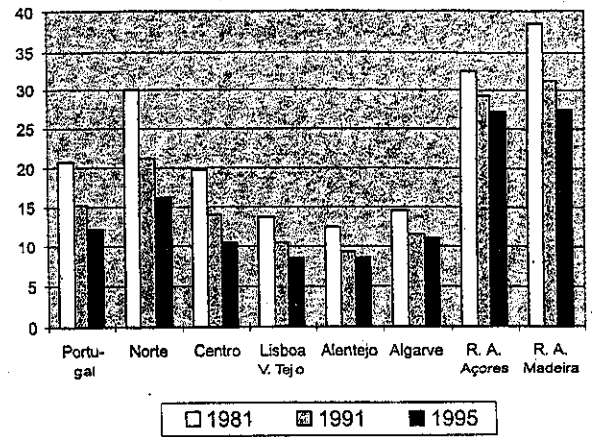


図9 地域別家族員数5人以上の家族 (%)  
(1981,1991,1995)



出典) INE, Recenseamento Geral da População, 1981,1991.

Inquérito ao Emprego, 1995. INE, Portugal Social, 1991/1995

## 2) 世帯形態の変化

居住の形態に関しては、近年、母子または父子家族が比率の上で増加している。片親の家族は、1981年には78,051人に相当する25,462あったが、1991年には618,619人の相当する214,310の家族数に達した。これは、この10年間に741.7%の増加を示したことになる。この傾向は1990年代にはいっても変わらず、全体の居住形態における構成比は、1981年には0.9%を超えなかったものが、15年後の1995年には約10%に達している。特に母子共棲の比率が父子よりもはるかに大きく、前者が8.1%であったことに対し、後者は1.4%であった。この事実に関しては、一方では、離婚の増加と離婚した後に子どもが母親と共棲する比率が高まることと、男性の死亡による（男性の死亡率が女性よりも高い）婚姻の解消に関連していると思われる。

高齢化の進むなかで、1995年段階で65歳以上の人口の半分以上（66%）は配偶者と共に暮らし、1人暮らしは18.8%、配偶者以外と共棲している人口は14.6%である。また若年層20～29歳において両親の家に居住する比率は71.5%であり、ここでは男性の方が女性より両親の家に居住する割合が高い。

(表 18) 「家族の居住の形態 (%) 1981~1995 年」

年	1981	1991	1995
合計 (%)	100.0	100.0	100.0
子どもと共棲している夫婦で、加えて他の個人が居住するかあるいはしない家族	52.6	49.9	51.0
子どもと共棲していない夫婦で、加えて他の個人が居住するかあるいはしない家族	23.9	22.2	21.7
夫婦いずれか一方の家族	0.87	6.8	9.6
子どもと父親のみ共棲する家族で、加えて他の個人が居住するかあるいはしない家族	×	0.9	1.4
子どもと母親のみ共棲する家族で、加えて他の個人が居住するかあるいはしない家族	×	5.9	8.1
1人で構成される家族	13.0	13.8	13.8
その他	9.8	7.2	4.0

出典) INE, Recenseamento Geral da População, 1981, 1991.

Inquérito ao Emprego, 1995, INE, Portugal Social, 1991/1995

(表 19) 「20~29 歳人口の共同居住 coabitação 分布 (%) 1995 年」

年	一人暮らし sozinho	両親の家	配偶者 casado
合計	2.1	71.5	26.4
男	1.5	79.3	19.2
20~24 歳	0.9	92.1	7.6
25~29 歳	2.2	61.3	36.5
女	2.7	63.6	33.7
20~24 歳	2.7	80.6	16.7
25~29 歳	2.7	42.1	55.2

出典) INE, Inquérito ao Emprego, 1995. INE, Portugal Social, 1991/1995

#### (6) 経済活動人口

1990 年代の労働人口 (経済活動人口) の推移をみると、1990 年の 472 万 8,300 人から 1998 年の 498 万 6,800 人へと 5.5% の増加を示しているが、これは女性の労働人口の増加を反映したものであり、女性が 16.3% の増加も示したものである。尚、男性はこの間 0.3% 減少している。

1998 年現在の就労人口の内訳は、農業にみられる第一次産業部門が 13.5%、工業部門が 35.8%、サービス業が 50.7% となっている。90 年代に入ってから就労人口の推移をみると、農業は約 20% 減、工業は 9.1% 増、サービス業は 11.9% 増と、農業部門人口の減少が際立っている。

就労人口の推移をみれば、女性就労人口の工業・建設・エネルギー・水力部門での増加が著しく、

98年は前年より23.7%増加している。女性に関しては、97年2.4%増、98年3.7%増とコンスタントな増加が認められ、全体としての就業率は1998年において、男性57.0%、女性43.6%に達している。一方、部門別で女性の就労人口が男性を上回っているのは、サービス業部門である。

(表20) 「労働人口の推移 1990～1998年」

年	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998
総人口(千人)	9,877.5	9,864.5	9,869.2	9,892.2	9,912.2	9,920.8	9,934.1	9,957.3	9,967.8
労働人口計	4,728.3	4,688.4	4,759.2	4,736.2	4,804.5	4,789.1	4,788.8	4,854.5	4,986.8
男	2,699.1	2,639.1	2,670.7	2,628.4	2,654.0	2,638.6	2,735.9	2,654.3	2,625.9
女	2,029.3	2,049.3	2,088.5	2,107.8	2,150.6	2,150.5	2,052.9	2,200.2	2,360.9
就労人口	4,509.0	4,524.2	4,564.6	4,477.8	4,478.8	4,448.7	4,444.9	4,530.4	4,738.8
農業(a)	804.3	537.9	525.2	517.9	527.2	512.9	545.9	617.0	639.5
工業(b)	1,553.7	1,513.9	1,510.8	1,468.8	1,463.0	1,427.6	1,385.5	1,419.2	1,694.7
サービス業	2,149.1	2,472.5	2,528.7	2,491.1	2,488.9	2,508.2	2,513.5	2,494.2	2,404.6

注) 1990～1995年データは INE, Portugal Social 1991/1995 に基づく。

1996～1998年データは INE, Anuário Estatístico de Portugal 1998, p.69

(a) 1996～1998年は Agricultura, Silvicultura e Pesca を含む。

(b) 1996～1998年は Indústria, Construção, Energia e Água を含む。

出典) INE, Portugal Social 1991/1995. INE, Anuário Estatístico de Portugal 1998

(表21) 「労働人口の推移」

(単位：千人)

年		1996	1997	1998	増加率	
					97/96%	98/97%
総人口		9,866.7	9,877.5	9,967.8	0.1	0.9
労働人口		4,788.8	4,854.5	4,986.8	1.4	2.7
就労人口		4,444.9	4,530.4	4,738.8	1.9	4.6
	男	2,458.9	2,495.8	2,628.3	1.5	5.3
	女	1,986.0	2,034.6	2,110.5	2.4	3.7
農業・林業・漁業		545.9	617.0	639.5	13.0	3.6
	男	275.5	300.0	320.5	8.9	6.8
	女	270.4	317.0	319.0	17.2	0.6
工業・建設・エネルギー・水力		1,385.5	1,419.2	1,694.7	2.4	19.4
	男	952.2	998.9	1,174.7	4.9	17.6
	女	433.3	420.3	520.0	-3.0	23.7
サービス業		2,513.5	2,494.2	2,404.6	-0.8	-3.6
	男	1,231.1	1,196.8	1,133.1	-2.8	-5.3
	女	1,282.4	1,297.4	1,271.5	1.2	-2.0
就業率 (%)		48.5	49.1	50.0		
	男	55.4	56.4	57.0		
	女	42.2	42.6	43.6		
失業率 (%)		7.2	6.7	5.0		
	男	6.4	6.0	3.9		
	女	8.2	7.5	6.2		

出典) INE, Anuário Estatístico de Portugal 1998, p.69



(表 22) 「就労人口の割合—1998 年 (NUTS II)」

(単位：千人)

地域	Norte	Centro	Lisboa e Vale do Tejo	Alentejo	Algarve	Açores	Madeira
総人口	3,570.7	1,710.5	3,321.9	512.9	347.3	244.5	260.1
男	1,729.6	822.6	1,587.4	249.0	169.4	120.1	121.6
女	1,841.1	887.9	1,734.5	263.9	177.9	124.4	138.5
労働人口	1,803.8	935.4	1,633.7	228.2	164.6	99.1	122.0
男	999.0	494.2	886.3	132.9	93.6	64.1	65.8
女	804.8	441.2	747.4	95.3	71.0	35.0	56.2
就労人口	1,715.6	912.1	1,534.3	209.8	154.6	94.7	117.7
男	959.2	484.6	843.1	125.8	89.0	62.7	64.0
女	756.4	427.5	691.2	84.0	65.6	32.0	53.7
農業・林業・漁業	237.6	240.9	77.7	28.9	19.7	17.2	17.5
男	112.7	98.5	49.9	19.7	15.0	16.2	8.4
女	124.9	142.4	27.8	9.2	4.7	1.0	9.1
工業・建設・エネルギー・水力	820.5	298.0	428.1	56.2	31.9	22.8	37.2
男	527.3	214.2	315.6	47.1	26.5	18.7	25.4
女	293.2	83.8	112.5	9.1	5.4	4.1	11.8
サービス業	657.4	373.3	1,028.5	124.7	103.1	54.6	63.1
男	319.1	171.9	477.6	59.0	47.5	27.7	30.3
女	338.3	201.4	550.9	65.7	55.6	26.9	32.8
就業率 (%)	50.5	54.7	49.2	44.5	47.4	40.5	46.9
男	57.8	60.1	55.8	53.4	55.3	53.4	54.1
女	43.7	49.7	43.1	36.1	39.9	28.1	40.6
失業率 (%)	4.9	2.5	6.1	8.1	6.1	4.5	3.5
男	4.0	2.0	4.9	5.3	4.9	2.2	2.7
女	6.0	3.1	7.5	11.9	7.6	8.6	4.4

出典) INE, Anuário Estatístico de Portugal 1998, p.70 に基づく。

就業率に関しては、セントロの 54.7% が最も高く、また最も低いのがアソーレスの 40.5% である。性別にみると、男性では、セントロの 60.1% が最も高く、また女性に関しても、セントロが 49.7% と高い。一方低率を示したのは、男性では、アレンテージョとアソーレスの 54.4%、女性ではアソーレスの 28.1% となっている。失業率に関しては、1996 年に 7.2%、1997 年に 6.7%、1998 年に 5.0% と低下の傾向にある。しかしながら、地方別にみれば、アレンテージョが 8.1% と高率であることに対して、セントロが 2.5% とその差が大きい。特に性別にみた場合、女性の失業率がアレンテージョで 11.9% であったことに対してセントロでは 3.1% であった。こうした点から、女性の就業に関する地方別差異が男性に比べて大きいことが理解される。

平均月収（基準給及び総収入）の最近の変化をみると、以下の表のように、1993 年から 1997 年までの間に基準給で 18,347 エスクード、総収入で 24,336 エスクードと緩やかな上昇をみせている。その一方で男女間の差は、基準給で 23,000 から 27,000 へ、総収入で 33,095 から 39,687 へと若干差が広がりを見せ、男女間の差は縮まってはいない。

(表 23) 「性別平均月収の推移 1993-1997 年」

(単位：エスクード)

		1993年3月	1994年10月	1995年10月	1995年10月	1995年10月
基礎平均月収 (a)	男女	89,136	96,141	99,101	104,951	107,483
	男	98,024	105,364	109,309	115,543	118,688
	女	74,628	81,913	83,649	88,941	91,105
月平均収入(b)	男女	103,974	112,925	117,426	124,580	128,310
	男	116,547	126,119	132,057	139,741	144,432
	女	83,452	92,575	95,281	101,663	104,745

注) a) Remuneração base

b) Ganho

出典) Ministério do Trabalho e da Solidariedade – Departamento de Estatística do

Trabalho, Emprego e Formação Profissional, “Quadros de Pessoal 1997”, p.33 に基づく。

## (7) 教育

近年教育開発は進められてきており、1960年に33.1%示した非識字率は、1970年に約26%、1981年に約18%、そして1991年現在は11%まで低下している。しかしながら、EU諸国との比較では前述の通り識字率はまだ最下位に位置している。

就学者数については、90年代に入り、中等教育及び高等教育において増加がみられる。特に「表25」にみられるように、女性の教育水準の近年での上昇が顕著であり、これが全体的な増加に反映されている。

(表 24) 「就学者数の推移 1990~1995 年」

年	未就学児教育 pré-escolar	基礎教育 básico	中等教育 secundário	高等教育 superior
1990	146,739	1,484,256	341,597	
1991	176,822	1,502,113	401,263	219,424
1992	179,135	1,441,889	415,861	247,523
1993	183,298	1,429,824	438,300	276,534
1994	185,088	1,408,449	457,194	300,573
1995	191,162	1,338,877	467,783	319,525

出典) INE e Ministério da Educação-Estatísticas da Educação

INE, Portugal Social, 1991/1995

INE, Anuário Estatístico de Portugal 1998

(表 25) 「6 歳～29 歳人口の教育水準 (1990-1995 年) (%)」

教育水準		1990	1991	1992	1993	1994	1995
基礎	計	41.1	41.3	38.4	38.0	36.7	36.5
	男	42.3	42.4	39.4	39.1	38.1	37.5
	女	39.8	40.2	37.4	36.8	35.2	35.4
中等	計	9.7	10.2	10.6	12.4	13.5	14.3
	男	8.5	9.1	9.5	11.5	12.9	13.9
	女	10.9	11.3	11.8	13.3	14.1	14.8
高等	計	4.0	4.5	7.1	7.7	9.0	9.8
	男	3.3	4.0	6.0	6.7	7.4	7.9
	女	4.7	5.0	8.3	8.8	10.6	11.7

出典) INE, Inquérito ao Emprego

INE, Portugal Social, 1991/1995

## (8) 国際人口移動

### 1) 国際的流出入

ポルトガルの人口動向の特徴として国際的な人口の移動性がある点は前述の通りである。74 年革命直後には合計で 32,057 人であった居住外国人数が、約 10 年後の EU 加盟当時は 8 万人を超え、90 年に入ってから 10 万人を超えた。その後も増加の傾向は続いて、94 年には 15 万人を超えた。1997 年段階においては、175,263 人に達し、前年比 1.4% の増加であったが、これは、過去 10 年間の中では最低の増加率である。居住外国人を国籍別でみると、75 年以降急激に増加したアフリカ人の割合の増加が目立ち、アフリカ国籍、ブラジル国籍、そしてイギリス国籍が、それぞれ 46.6%、11.4%、7.0% を占めた。アフリカ国籍の内訳は、Cavo Verde 22.7%、Angola 9.3%、Guiné Bissau 7.3%、その他 7.3% であった。

### 2) 国外移民

一方、国外への移民数も多く、以下の表のように 1965 年から 1973 年までは 10 万人以上の国外移民を出している。この傾向は「表 27-1」で見られるように革命以降急激に減少している。1996 年のポルトガル人の国外移民の流れは、29,066 人で、これは前年の 28.7% 増である。これらは、permanentes (永続的移民=1 年よりも長い期間継続的に海外に居住する意図で国外へ出た個人) と temporários (一時的移民=1 年または 1 年以下の一定期間海外滞在の意図で国外へ出た個人で、何らかの報酬を求めた労働を意図するもの、出稼ぎ移民) とに二分した場合、前者が 33%、後者が 67% の割合となる。

	合 計	permanente	temporários
1992	39,322	22,324	16,998
1993	33,171	15,562	17,609
1996	29,066	9,598	19,468

一方、「表 28」の通り、目的地に関しては、ドイツ、フランス、スイスが主要渡航先となっており、この 3 カ国で全体の 80% を占める。また、男女別にみれば、合計において男性が 76.6%、permanente では男性が 68.7%、temporários では男性が 80.5% にあたる。年齢層に関しては 15~39 歳が全体の約 77% を占め、permanente では 84.5%、temporários では

73.2%やく、また、独身者と既婚者の割合はやや独身者が多い。こうした点をみると、1970年代のような規模ではないにしても、主要な経済活動人口層の男性がEU諸国を渡航先とした出稼ぎ労働による移動をみせていることが理解される。

国外移民者の出身地域別をみれば、多くがノルテとセントロ出身者で、それぞれ45.1%、27.2%と、この2地域で大半を占めている。伸び率をみれば、1996年のpermanenteに関しては、最も高率であった地域はセントロの2.3%、次いでノルテの0.9%であったが、temporárioの方は傾向がこれとは傾向が異なり、アレンテージョとアルガルベが高率でこの両者合計が4.5%、次いでノルテが2.8%であった。

ポルトガル全土における外国人居住者推移に関しては、「表26」の通りであるが、この推移をdistrito別に整理すると以下の「表30」のように示される。全国的な傾向として外国人の占める割合は増加しているが、地域別ではリスボン、ファロ、セトゥーバル、及びポルトのdistritoに集中しており、これらだけで、全体の83.3%を占めている。また、国籍別の地域分布に関しては「表31」に示される通りであり、EU諸国の地域別分布がリスボン、ファロ、ポルト、セトゥーバルの順であったことに対し、アフリカ諸国の分布順がリスボン、セトゥーバル、ファロ、ポルトの順で、特にアフリカ出身者がEU諸国出身者に比してセトゥーバルに多く占めることが特徴となっている。セトゥーバルにおいては、アフリカ出身者が12,324人、EU諸国出身者2,098人と、前者が後者の約6倍の人数に達している。

(表 26) 「居住外国人数の推移 1960-1998 年」

年	滞在外国人数 合計	ヨーロッパ人	アフリカ人	ブラジル人
1960	20,514	18,092	96	611
1961	19,209	16,580	117	621
1962	19,940	17,373	110	599
1963	19,219	16,488	145	592
1964	18,823	15,685	106	695
1965	21,229	17,535	168	769
1966	22,635	18,306	188	933
1967	22,104	17,715	168	944
1968	22,907	17,968	262	1,044
1969	10,945	8,019	196	497
1970	24,703	18,709	221	1,330
1971	26,691	19,696	365	1,554
1972	28,108	19,645	450	1,935
1973	-	-	-	-
1974	32,057	21,797	434	2,667
1975	31,983	21,414	503	2,848
1976	32,032	19,889	2,463	3,169
1977	35,414	18,792	6,578	3,359
1978	41,807	17,439	13,144	3,765
1979	47,189	16,635	20,025	3,425
1980	58,091	17,706	27,748	4,136
1981	62,692	18,931	27,948	5,045
1982	68,153	19,924	28,903	5,941
1983	79,015	22,053	32,481	7,202
1984	89,625	23,896	37,128	7,997
1985	79,594	22,060	34,978	6,804
1986	86,982	24,040	37,829	7,470
1987	89,778	25,676	38,838	7,830
1988	94,453	27,280	40,253	9,333
1989	101,011	29,247	42,789	10,520
1990	107,767	31,410	45,255	11,413
1991	113,978	33,011	47,998	12,678
1992	122,348	34,732	52,148	14,158
1993	131,593	37,154	55,786	15,731
1994	157,073	41,819	72,630	18,612
1995	168,316	44,867	79,231	19,901
1996	172,912	46,033	80,509	20,082
1997	175,263	49,747	81,717	19,990
1998	176,225	50,505	82,000	19,967

出典) INE, Estatísticas Demográficas, SEF do MAI(Serviço de Estrangeiros e Fronteiras do Ministério da Administração Interna)

A Situação Social em Portugal, 1960-1995, Instituto de Ciências Sociais –  
Universidade de Lisboa, 1996.

Policarpo Lopes, *Portugal: Holograma da Mobilidade Humana*, Editora Rei  
dos Livros, 1998.

(表 27-1) 「国外移民数の推移 1960-1988 年」

年	移民数合計	合法移民	非合法移民
1960	32,732	32,318	414
1961	34,796	33,526	1,270
1962	38,210	33,539	4,671
1963	53,970	39,519	14,451
1964	86,282	55,646	30,636
1965	116,974	89,056	27,918
1966	132,834	120,239	12,595
1967	106,280	95,502	10,778
1968	104,149	80,452	23,697
1969	153,536	70,165	83,371
1970	173,267	66,360	106,907
1971	151,197	50,400	100,797
1972	104,976	54,984	50,892
1973	120,019	79,517	40,502
1974	70,273	43,397	26,876
1975	44,918	24,811	20,107
1976	33,246	17,493	15,753
1977	28,989	17,226	11,763
1978	24,461	18,659	5,802
1979	24,392	20,574	3,818
1980	31,781	18,071	13,710
1981	31,234	16,513	14,721
1982	15,600	10,276	5,324
1983	12,617	7,096	5,521
1984	10,528	6,556	3,972
1985	9,545	7,149	2,396
1986	7,131	6,253	878
1987	8,108	8,108	-
1988	9,540	9,540	-

(表 27-2) 「国外移民数の推移」

5 ヶ年	年平均国外移民数
1960～1964 年	49,198
1965～1969 年	122,755
1970～1974 年	123,946
1975～1980 年	31,201
1980～1985 年	20,352
1985～1988 年	8,581

出典) Secretária de Estado das Comunidades Portuguesas, Ministério dos Negócios Estrangeiros, 1988.

A Situação Social em Portugal, 1960-1995, Instituto de Ciências Sociais – Universidade de Lisboa, 1996.

Policarpo Lopes, *Portugal: Holograma da Mobilidade Humana*, Editora Rei dos Livros, 1998.

(表 28) 「移民相手国別分布 1996 年」

		合 計	permanente	temporários	
全 体	計	29,066	9,598	19,468	
	男	22,271	6,594	15,677	
	女	6,795	3,004	3,791	
ヨーロッパ	計	27,829	9,221	18,608	
	男	21,116	6,258	14,858	
	女	6,713	2,963	3,750	
ドイツ	計	10,230	2,873	7,357	
	男	8,617	2,041	6,576	
	女	1,613	832	781	
	フランス	計	6,902	1,880	5,022
		男	4,980	1,459	3,521
		女	1,922	421	1,501
	イギリス	計	2,360	1,170	1,190
		男	1,094	624	470
		女	1,266	546	720
	スイス	計	5,940	1,932	4,008
		男	4,028	768	3,260
		女	1,912	1,164	748
その他	計	2,397	1,366	1,031	
	男	2,397	1,366	1,031	
	女	0	0	0	
北米	計	321	123	198	
	男	×	×	×	
	女	×	×	×	
その他の国	計	916	254	662	
	男	×	×	×	
	女	×	×	×	

出典) INE, Estadísticas Demográficas 1997

(表 29) 「国外移民の性別・独身・既婚別分布」

		合 計	permanente	temporários
合 計	計	29,066	9,598	19,468
	男	22,271	6,594	15,677
	女	6,795	3,004	3,791
0~14 歳	計	968	166	802
	男	×	×	×
	女	×	×	×
15~39 歳	計	22,364	8,107	14,257
	男	16,882	5,344	11,538
	女	5,482	2,763	2,719
40 歳以上	計	5,734	1,325	4,409
	男	×	×	×
	女	×	×	×
独身者	計	14,350	5,975	8,375
	男	9,820	3,794	6,026
	女	4,530	2,181	2,349
既婚者	計	13,391	3,175	10,216
	男	11,292	2,352	8,940
	女	2,099	823	1,276
その他	計	1,325	448	877
	男	1,159	448	711
	女	166	-	166

出典) INE, Estatísticas Demográficas 1997 に基づく。

(表 30) 「外国人の地方別分布 - 1975-1997 年(distrito)」

	1975	1978	1980	1985	1988	1990	1994	1996	1997
Portugal	31,983	41,807	58,091	79,594	94,453	107,767	157,073	172,912	175,263
REGIÃO do NORTE	3,359	4,034	5,023	7,843	8,838	10,653	14,307	15,621	15,571
Viana do Castelo	320	389	549	825	838	881	1,158	1,237	1,143
Braga	275	457	644	1,024	1,325	1,552	2,306	2,742	2,854
Porto	2,548	2,999	3,496	5,509	6,025	7,447	9,887	10,690	10,669
Vila Real	122	135	235	363	498	594	747	693	642
Bragança	94	54	99	122	152	179	209	259	263
REGIÃO do CENTRO	2,055	3,119	4,507	7,737	10,008	11,159	15,102	15,813	15,912
Aveiro	690	1,251	1,965	3,950	5,193	5,397	6,724	6,903	6,899
Coimbra	577	709	924	1,288	1,841	2,312	3,816	4,169	4,294
Leiria	302	465	605	1,138	1,334	1,523	2,142	2,268	2,325
Viseu	240	380	499	738	857	1,016	1,261	1,246	1,204
Guarda	143	154	233	328	468	558	648	662	652
Castelo Branco	103	160	281	295	315	353	511	565	538
REGIÃO de LISBOA	22,142	29,744	41,648	50,171	59,283	66,905	100,439	112,529	114,191
Lisboa	20,737	25,240	34,023	40,955	48,806	55,580	85,511	95,348	96,759
Santarém	300	293	572	566	728	855	1,098	1,196	1,229
Setúbal	1,105	4,211	7,053	8,650	9,749	10,470	13,830	15,985	16,203
REGIÃO do SUL	2,668	2,855	4,147	7,756	10,921	13,300	21,541	23,630	24,485
Portalegre	206	188	240	301	343	364	449	479	507
Évora	187	211	315	342	518	561	717	766	794
Beja	422	201	209	292	376	454	634	725	777
Faro	1,853	2,255	3,383	6,821	9,684	11,921	19,741	21,660	22,407
REGIÕES AUTÓNOMAS	1,760	2,055	2,766	6,087	5,403	5,750	5,684	5,319	5,104
Açores	995	1,227	1,569	3,768	2,828	2,899	2,900	2,809	2,765
Madeira	764	828	1,197	2,319	2,575	2,851	2,784	2,510	2,339

出典) INE, Estatísticas Demográficas 1997



(表 31) 「外国人の国籍別分布 - 1997年(distrito)」

	合計	ヨーロッパ		アフリカ	北米	中南米	アジア	オセア ニア	国籍不明
		EU	EU以外						
Portugal	175,263	46,043	3,704	81,717	10,573	25,274	7,192	487	273
REGIÃO do NORTE	15,571	5,389	448	3,107	729	5,272	591	19	16
Viana do Castelo	1,143	518	25	118	185	270	25	1	1
Braga	2,854	903	89	586	125	1,058	86	5	2
Porto	10,669	3,769	313	2,178	328	3,595	463	12	11
Vila Real	642	116	14	131	82	296	3	-	-
Bragança	263	83	7	94	9	53	14	1	2
REGIÃO do CENTRO	15,912	3,619	388	3,348	1,857	6,248	390	49	13
Aveiro	6,899	918	161	1,049	760	3,855	141	13	2
Coimbra	4,294	1,334	96	1,304	311	1,070	150	28	1
Leiria	2,325	772	70	594	398	442	37	4	8
Viseu	1,204	230	28	160	139	618	27	1	1
Guarda	652	166	7	113	197	153	15	-	1
Castelo Branco	538	199	26	128	52	110	20	3	-
REGIÃO de LISBOA	114,191	22,198	1,961	67,869	5,274	11,062	5,403	228	196
Lisboa	96,759	19,680	1,749	55,088	4,913	9,976	4,992	190	171
Santarém	1,229	420	31	457	129	145	40	7	-
Setúbal	16,203	2,098	181	12,324	232	941	371	31	25
REGIÃO do SUL	24,485	13,434	713	6,904	886	1,563	773	176	-
Portalegre	507	282	23	142	14	39	6	1	-
Évora	794	440	13	211	23	85	17	5	-
Beja	777	575	33	98	17	49	5	-	-
Faro	22,407	12,137	644	6,453	832	1,390	745	170	36
REGIÕES AUTÓNOMAS	5,104	1,403	194	489	1,827	1,129	35	15	12
Açores	2,765	463	61	331	1,744	139	19	4	4
Madeira	2,339	940	133	158	83	990	16	11	8

出典) INE, Estatísticas Demográficas 1997

(表 32) 「国外移民の地域別性別分布」

		合計		
		permanente	temporários	
Portugal	計	29,066	9,598	19,468
	男	22,271	6,594	15,677
	女	6,795	3,004	3,791
Continente	計	28,329	9,259	19,070
	男	18,244	5,759	12,485
	女	4,572	2,080	2,492
Norte	計	13,114	3,154	9,960
	男	11,122	2,822	8,300
	女	1,992	332	1,660
Centro	計	7,904	3,952	3,952
	男	4,992	1,872	3,120
	女	2,912	2,080	832
Lisboa e Vale do Tejo	計	2,769	1,491	1,278
	男	2,130	1,065	1,065
	女	639	426	213
Alentejo	計	2,392	312	2,080
	男	×	×	×
	女	×	×	×
Algarve	計	2,150	350	1,800
	男	×	×	×
	女	×	×	×
Região Autónoma Açores e Madeira	計	1,087	314	773
	男	505	223	282
	女	582	91	491

出典) INE, Estatísticas Demográficas 1997

### (9) 人口の将来予測

1998年の980万人が2050年には810万人へと減少

国連による人口予測によると、ポルトガルの人口は今後増加することは見込まれず、2050年には810万人へと減少することが見込まれている。人口成長に関して影響を与える要因としては、最近の急速な経済開発による放縱な消費喚起の経済面と、女性の労働市場参入の定着化の方向という精神的作用の両面が指摘される。また、今後においても、海外への出稼ぎ労働にみられる短期移民輩出の傾向に大きな変化は見込まれない。

#### 都市人口の増加

国全体としての人口減少が予測される一方で、リスボン周辺の都市化が進行して、1996年のリスボン人口190万人が、2015年には230万に膨張すると予測されている。この傾向も、政府の都市開発、産業振興策の動きを反映するものである。一次産業部門の振興が国内の農村地域における地域開発との連携で促進されない限り、農村地方の人口が都市部の雇用機会並びにEU主要国における雇用機会を求めて移動を繰り返す性格に大きな変化は見込まれない。

### 3. ポルトガルにおける出生及び家族分析の現状

#### (1) 少子化に関する調査の現状

ポルトガルにおける少子高齢化の問題は、1980年代の後半、特にEU加盟後の主要国との連携のなかで、国内の社会経済開発の主要な政策課題という認識が本格的になされるようになった。換言すれば、革命政権以降、急速な経済開発を主眼とする政策骨子においては、様々なインフラ整備などの対応の一環として近時着手されつつある分野として位置づけられる。

前出「表1」に示される通り、国民の社会開発的な開発段階はEU主要国に比較していまだに遅れている事実は否定できない。そうした状況のなかで、特にヨーロッパ主要国及び西側諸国における世界的な少子高齢化の趨勢を認識した新世紀に向けての人口政策が主要政策課題となった状況において、ポルトガルにおいても少子高齢化に関する現状認識の必要性が1980年代初頭より唱えられようになった。こうした少子化及び家族に関する基本的な公的調査研究は国立統計院(INE-Instituto Nacional de Estatística)によって着手された。

国立統計院(INE)は、ポルトガルにおける公式統計資料調査・研究機関であり、本部を首都リスボンに置き、自然科学、社会科学などの様々な専門分野に関わる調査研究部署を本部及び地方に配属して、各専門家が調査研究にあたり、主要な公的年次統計資料並びに調査報告資料の作成及び出版事業を行っている。人口動向及び社会政策関連の調査資料に関しては、当機関の人口・社会調査研究の部署がこれを所管し、専門の研究員が調査・研究にあたり、時に応じて大学などの専門研究者と連携して事業を遂行している。

人口動向に関する専門機関誌としては、INE 編纂・出版の『Portugal-Estudios Demográficos』の年報がある。これは当研究員の専門家に加えて国内の大学教授などの専門家によって執筆された論文、調査報告書などが主に編纂されているものであり、当機関の一般閲覧・図書室に閲覧用として置かれ、また販売部において販売されている。論考の内容に関しては、ポルトガルからの海外移民、また、海外からの外国人の入国などの国際的な人口移動のテーマが比較的多いが、90年代に入ってから、ヨーロッパ域内の人口移動に加えて、国内の少子高齢化の動向や人口予

測に関する研究論文がみられる。公表された同誌最新号は1993年第31号 (Estudos Demográficos 1993 N°31) であり、ここには、以下のようにINE 当部署局長による1990年の国勢調査を資料源とした国内地域別高齢化の推移及び人口予測をはじめ、医学博士、雇用・労働政策研究専門員などによる執筆論考が数点編纂されている。

Maria José Carrilho(Chefe de Serbiço do Gabinete de Estudos Demográficos do INE)“O Processo de Envelhecimento em Portugal : Que Perspectivas...?”

Maria José Carrilho e João Peixoto(Gabinete de Estudos Demográficos do INE e Instituto Superior de Economia e Gestão da Universidade Técnica da Lisboa) “A Evolução Demográfica em Portugal entre 1981 e 1992”

Agostinho Almeida Santos(Professor Catedrático da Faculdade de Medicina de Coimbra)“Demografia e Esterilidade – Realidade Confluentes?”

M.Raquel Ribeiro (Presidente da Comissão Nacional para Política da Terceira Idade e Directora-Geral da Família, Ministério do Emprego e da Segurança Social) “O Envelhecimento em Portugal”

## (2) ポルトガル国立統計院による出生及び家族調査

国立統計院 (以下 INE) において 1997 年に行われた出生及び家族に関する最新の調査報告書が 1998 年 9 月に公表されている。この報告書は、調査によって収集された統計資料の概要を報告した Preliminary Report である (INE, Inquérito à Fecundidade e Família : Resultados Preliminares)。

これに先立つ INE の調査としては

- ① 1980 年、World Fertility Surveys – WFS の共同研究プロジェクトへの参加。これは、WFS の専門家の技術協力と人口活動国連基金 (FNUAP – Fundo das Nações Unidas para as Actividades da População) の資金協力に基づく出生に関する調査。
- ② 1990 年代に入り、出生率低下が人口問題を考える上で大きな関心を呼ぶようになった背景を受けて、1992 年 8 月 4 日付統令第 178 号に基づく厚生省通達の「家族医療・出生・人的再生産に関する研究専門家グループ (Grupo de Trabalho para o Estudo da Medicina Familiar, Fertilidade e Reprodução Humana)」の設立。これは、INE 人口研究センターを主管とする専門家グループ。
- ③ 1993 年 9 月、上記専門家グループ作成の調査報告書が厚生省より出版刊行。これにより、国連欧州経済委員会 (CEE/ONU – Comissão Económica das Nações Unidas para a Europa) 実施の出生・家族調査 (1991 年より 1996 年まで続行予定) に対するポルトガルにおける人口調査の統合化の方向性を開く。特に、他国との比較分析の必要性が唱えられ、また、実施にあたっては、企画省、厚生省、及び雇用・社会保険省の横断的で統合的な調査の必要性がいわれるようになった。

上記①の1980年の調査は、インタビュー調査の対象を15～49歳の既婚者・結婚経験者の女性に限定し、その女性の居住の地理的範囲は、大陸部のみであった。一方1990年代に入り、ポルトガルにおいてEU諸国の少子化と類似の傾向がみられるようになった。

例えば、

- ① 1981年に15万2,061人の新生児が1997年には11万2,933人へと36%減少
- ② 晩婚化の進行
- ③ 子どもを産む女性の平均年齢が高齢化
- ④ 不妊の増加
- ⑤ 子どもを生まない結婚した女性が増加
- ⑥ 結婚件数の減少
- ⑦ 婚外子の増加
- ⑧ 離婚件数の増加
- ⑨ 配偶者一方（片親）の家族の増加

こうした状況にあって、INEは、より幅を広げた社会的脈絡において少子化傾向を理解・認識する方向をとった。

すなわち、

- ① 少子化の要因として、競争社会における個人の社会参加がどうあるか
- ② 女性の教育、労働市場への参入
- ③ 家族における子どもの労働の役割の変化
- ④ 時代の変化に伴う信仰、価値観の変化、結婚・家族観の変化、避妊手段の普及と浸透、中絶数の増加

こうした様々な総合的問題意識の上で、INEは、1997年の調査において調査対象を1980年段階より拡大し、他のEU諸国との比較分析の可能性を考慮してより総合的な調査に着手した。

この1997年調査では、1991年国勢調査の源資料に基づいて女性に加えて男性も調査票配布対象とし、地理的範囲を先の大陸部限定からNUTS I及びIIへ拡大して調査票を配布した。回収は同年4月から3ヵ月弱で行われ、結果として、15～49歳の未婚及び既婚の女性6,260人、15～54歳の未婚及び既婚の男性3,130人を母数として、分析が進められた。

### (3) ポルトガル国立統計院1997年調査

#### 1) 家族構成

- ・ 15～19歳男女で配偶者及び子どものない個人は、女性の96%、男性の99%。
- ・ 有配偶者で子どものない個人は少なく、25～29歳の女性の12%、男性の14%であり、また結婚してから子どもを出産するまでの期間は長くない。
- ・ 有配偶者で子どもと居住する個人は高年齢の層になるにしたがって増加し、女性は25歳以上、男性は30歳以上になると各年齢層で有配偶者で子どもがいる個人は50%を超える。
- ・ 子どもと居住し配偶者がいない個人（片親の家族 *familias monoparentais*）の比率は他の居住形態に比較して少ない。しかしながら、この比率には男女の差が大きく、「母親と子ども」の居住で構成される家族が女性の5.0%であることに対し、「父親と子ども」